

▲椎間板内酵素注入療法の経過

—准噶爾盆地東部氣藏勘探與評價—



▲林田医師(中央右)・山城医師(同左)とリハスタッフ



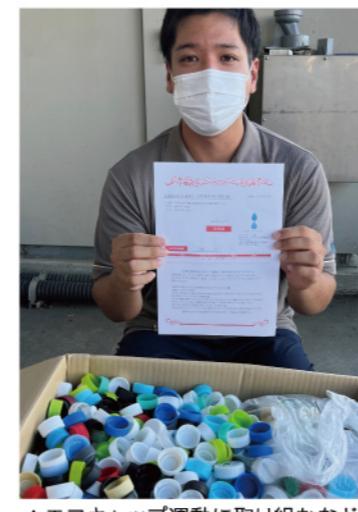
▲「会賓の里」づくりを目標とする上村の取り組みをサポート

DCS登録制度の認定も受けた。

〇年には県内医療機関に先駆けてSDGsの取り組みを開始し、全職員が一丸となって取り組んでいる。昨年2月には職員食堂の1食毎に「TABLE FOR TWO」を通して寄付する取り組みをはじめ、21年度は約4300食分を寄付した。またCO₂削減や障がい者雇用・医療支援などにつながるエコキヤツプ運動にも力を入れているほか、マイバッグ利用・水筒持参などにも職員一人ひとりが取り組むなど、組織の一体感醸成にも一役買っている。今年1月には熊本県S

す水上村の取り組みのサポートとして駅伝合宿に医師・看護師・理学療法士が参加するなどの活動も行っている。さらに、V2リーグに参戦している「フォレスティーズ熊本」を応援しており、現在4名の選手が在籍している。日中は看護助手、夕方からは選手という二足のわらじに奮闘する選手達を暖かく支えている。

成尾政一郎理事長・院長は「全職員の自己研鑽と成長をサポートして『質の高い医療の提供とその体制づくりに尽力している。地域社会および国際社会の一員として、医療機関としての役割を果たしていきたい」と話している。



▲エコキヤップ運動に取り組むなど 今貢献に主 積極的



▲脊椎脊髄外科の担当医師（左から尾崎医師、成尾院長、田畠医師、坂本医師）



▲脊椎の圧迫骨折に対して行う終皮的椎体形成術

専門性の高い治療による
早期の社会復帰をサポート



理事長・院長
成尾 政一郎

手術など治療方針を決め
早期の社会復帰をサポートし
ている。

また、高齢者に多く起こる背骨の圧迫骨折（椎体骨折）に対する20年度から「経皮的

**専門性の高い治療による
早期の社会復帰をサポート**

ており、「質の高い医療」の提供のため、看護・リハビリテーションなどの医療専門職も含めて医療提供体制の充実を図っている。

椎間板ヘルニア・椎体圧迫骨折に対する低侵襲治療の術数増加

体内に細い管で風船を挿入し、膨らませて元の形に成形後、骨用セメントを充填して骨折部の痛みを緩和させるというものの。手術は30分程度で終了し、翌日からのリハビリを経て1～2週間で退院できる。これらも術数は前年の3倍以上と増加した。

医療機関としての社会貢献に
全職員で取り組む



医療提供体制強化し術数1千件超える

脊椎外科・関節外科で「質の高い医療」を提供

間に位置する治療で、保存療法で症状が改善しない患者が適応となる場合もある。同治療の開始以来、仕事を長期休めない若い患者も多く訪れるなど術数は右肩上がりで増え続けており、21年度も前年の約2倍となつた。